

< 3 学期始業式式辞 >

R 2 . 1 . 7

令和ももう2年になりました。時の過ぎるのは本当に早いですね。新しい年を迎え、まとめの学期となる3学期が始まります。

そして、2020年オリンピック・パラリンピックイヤーでもあります。スポーツを通して多くの感動がある、ワクワクする年になりそうですね。

今日のお話は、私の尊敬するイチロー選手のお話です。野球人としても、一人の人間としても、とても尊敬しています。今までのイチローさんの生き方を、とても尊敬しているのです。

イチロー杯学童軟式野球大会（第24回）最後の閉会式での言葉です。「自分で自分を教育しなければならない。みんなが生きている時代はそれがすごく大事。」と小学生に伝えました。中学校は、令和3年度から新しい学習指導要領に変わります。「主体的、対話的で深い学び」という言葉はよく聞きますね。先生たちも「ティーチング」から「コーチング」へと意識を変えます。わかりやすく言えば、「教えること・伝えること」から「みんなが持っている能力を引き出すように支援すること」に変えていきます。変えなければいけないのです。

「変わる」ことについて、イチロー選手の「変わらなきゃ」精神について紹介したいと思います。1995年に「変わらなきゃ」という言葉が流行しました。当時オリックスに所属していたイチロー

選手が、ある企業のCMで、「変わらなきゃ、きっとその方がうまくいく」と言っていたことがきっかけです。変化を恐れずに新たな挑戦を繰り返してきたイチロー選手が、偉大な結果を残してきたことはご存じのとおりです。

「伝統」って何でしょうか。変わらない良いものが「伝統」でしょうか？私は、「伝統」を守る唯一の方法は「伝統」を打ち破ることだと考えます。どんな「伝統」にせよ、守り続けるのは容易ではありません。どれだけ素晴らしいものでも、同じことを繰り返しているだけでは、新しいファンを獲得することはできず、今までのファンにも飽きられ、やがて衰退していく運命にあります。長く続いてきたこと、長く愛されてきたものには、いろんな意味や魅力があります。歌舞伎にせよ蒔絵にせよ和食にせよ、「伝統」を守りつつ、さらに発展しているものも少なくありません。共通しているのは、どんどん「伝統」を打ち破って変わっているところ。歌舞伎は新しいスタイルの公演に挑戦し続け、蒔絵はスマホケースやシールなど多彩な用途への広がりを見せ、和食も従来の「常識」を破った食材や調理法がどんどん取り入れられています。

今年度4月の入学式・始業式に、「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉を贈りました。その理由は、今、お話ししたとおりです。令和2年という新しい年になりましたが、学校は3学期まとめの時期です。「自分はこの様に良く変わった」といえる3学期、まとめにしてほしいと思います。一緒にがんばりましょう。